

私立大学を取り巻く環境

大学入学者の供給母体である18歳人口は、18歳人口のピークであった1966年では249万人、平成期の18歳人口のピークであった1992年は205万人でしたが、2025年には約109万人にまで減少しています。2018年に中央教育審議会のグランドデザイン答申による「2040年までの18歳人口の推移」によれば、18歳人口は2035年には100万人を割り、2040年には88万人まで減少すると予測されていました。しかし、実際には国の予測をはるかに上回るペースで少子化が進行し、2024年の出生数は前年比5.8%減の68.5万人となり、18年後の2042年には18歳人口は70万人を割り込みます。すなわち、大学へ入学する供給人口が激減することが確実なのです。

反面、大学の総数（私立大学数）は1966年に346校（235校）、1992年に523校（384校）、2024年には813校（624校）にまで増加しました。この約60年で18歳人口は半減以下、私立大学数は倍以上になっています*。現在の大学への入学者数（入学定員）を維持するとなれば、2040年には18歳人口の約8割が大学へ進学する必要があり、これは現実的とは思えません。その意味でも、特に私立大学の淘汰もしくは規模縮小が避けられない時代に入っているといえます。

ホップ・ステップからジャンプへ

学校法人梅檀学園 東北福祉大学は、1875（明治8）年に宮城県曹洞宗専門学支校として創立し、2025（令和7）年に150周年を迎えました。中期事業計画は、2020年4月施行の改正私立学校法により私立学校の中期計画策定が義務化されたことに伴い、本学では2020年度より第1期中期事業計画（2020 - 2024）を策定しました。まさに、第1期中期事業計画の2020年度から2024年度の5年間は、150周年に向けての「ホップ」「ステップ」の時期でもありました。そして、今般の第2期中期事業計画（2025 - 2029）は、第1期中期事業計画を検証しつつ、残された課題への対応や将来の本学の方向性を明記した、150周年を起点とするいわゆる「ジャンプ」の時期に位置するものであり、本学にとって極めて重要なこれからの5年間といえます。

社会に必要とされる魅力ある大学を目指し、2018年のグランドデザイン、大学を取り巻く環境等を踏まえて、社会の改革のエンジンとなる大学づくりを目指し策定した第1期中期計画を引き継ぎながら第2期中期事業計画をここに策定しました。

不易流行

本学は、建学の精神「行学一如」、教育理念「自利・利他円満」を基底に据え、福祉、教育、医療、行政、産業など様々な分野の連携により、一人ひとりの多様な幸せとともに、社会全体の幸せを実現するウェルビーイング（Well-being）の理念の実現を目指す人材を養成しています。従来の「福祉」がウェルフェア（Welfare）の理解からウェルビーイングへとパラダイムが転換しつつある中で、本学はその先頭に立ち「新たな福祉」を切り拓いていく覚悟です。TFU Vision「福祉の新時代、はじまる。」には、このような本学の強い思いが盛り込まれています。

少子化が急進するなど私立大学を取り巻く環境は厳しいものがありますが、他方で、ライフスタイルが多様化し、専門的知識の獲得、自らの生きがいの追求、また生涯学習の一環など社会人の学び直しへのニーズが拡大していることも事実です。通学制のみならず通信教育部を有する本学は、これら環境の変化に柔軟に対応すべく教育システム及び方法の再構築を進めていきたいと考えています。

少子化が急進するなか、とりわけ地方の私立大学の在り方が問われている昨今、2025年に創立150周年を迎えた本学は、建学の精神、教育の理念など不変的考え方を教育の礎としてしっかりと守る一方で、急変する環境に柔軟に対応する、すなわち「不易流行」の視点をもって、これまでも、これからも社会に有用な人材を輩出することに注力していきます。

本学の新たな第2期中期事業計画を遂行すべく、教職員一丸となって、「教育・研究」「社会貢献」「学生支援」「大学運営」の向上に向けて取り組んでまいります。150周年を起点として「福祉の新時代」を追求する本学に皆さまのご理解をいただくとともに、ウェルビーイング実現に資する人材の育成により一層の支援を賜りますようお願いいたします。

福祉の新時代、はじまる。

— TFU Vision —

TFU Vision（トップビジョン）を具現化するための分野別ビジョン

教育・研究

- 学生が有意義で満足感を得られる教育の提供及びSociety5.0に対応できる人材の育成
- キャンパス整備による教育環境の充実
- 研究支援体制の強化による研究活動の推進

社会貢献

- 本学の特色・専門性をいかした社会貢献・地域連携事業によるWell-beingの実現
- 社会貢献活動の推進と情報発信の強化

学生支援

- 多様な学生に対応する教職協働かつ組織横断的な学生支援体制の構築
- 正課外活動等（スポーツ・文化）の活性化とブランディング・発信

大学運営

- インナーブランディング強化のための内部質保証システムの構築
- 効果的・効率的な戦略による学生募集
- 本学の教育の理念・目的の実現に向けた組織の編成と教員の資質向上
- 教職員の資質向上と運営基盤の強化
- 安定的財務基盤の構築
- 大学ブランド力の向上

行動目標レベルに落とし込んだ19の中期事業計画（2025-2029）

〈内部質保証〉

- ・ 組織のパフォーマンスを向上させるために内部質保証システムを深化させる
- ・ 第3期認証評価における是正勧告・改善課題の改善を図る

〈教育・研究〉

- ・ 学士課程において、学位プログラムを中心とした学修者主体の履修システムを構築する
- ・ 学生一人ひとりに向き合い、「個」に応じた成長と自立を促す教育を行う

〈学生の受け入れ〉

- ・ 学部・大学院・通信教育部学生の入学定員に対する入学者数比率及び収容定員に対する在籍学生数比率を適切に管理する

〈教育・教員組織〉

- ・ 中長期的な人員配置管理計画を策定し、運用を開始する
- ・ FDプログラムの推進と本学独自の「教員個人自己点検・評価シート」の活用で組織的に教員の資質向上を図る

〈学生支援〉

- ・ 教職協働かつ組織横断的な学生支援体制の整備と業務効率化により、学生支援を強化する
- ・ 学生の正課外活動（学生団体等）を活性化させ、その活動実績を積極的に外部に発信する

〈教育研究等環境〉

- ・ 科学研究費助成事業を含む競争的資金の申請者増加を目指し、研究活動の促進を図る為の体制を構築する
- ・ 教育環境の質的向上を目指し、全学的な施設整備計画を進める

〈社会連携・社会貢献〉

- ・ ボランティア活動等の取り組みの成果を始めた大学の資源を社会に還元し、情報発信を行う
- ・ 学科・研究科や各教員が取り組んだ教育研究成果を社会に還元できるような体制を構築し、研究成果等を積極的に外部に発信する

〈大学運営・財務〉

- ・ 教育研究活動等を担う教職員の育成を推進する
- ・ 寄附行為及びガバナンス・コードを踏まえ、監事・会計監査人の独立性を高めながら、相互に連携して監事監査を実施する
- ・ 中期の財務計画を適切に策定する
- ・ 収入の多様化と、支出の最適化を図る

〈広報〉

- ・ リブランディング戦略を進め、大学のアウトターブランド力を向上させる
- ・ 学内・同窓生への広報活動力を向上させる